

## 生ける水 ヨハネによる福音書 4:1-18

1. しかし、サマリヤを歩いていかなければならなかった。それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は六時ごろであった。(4:4-6)
  - a. 一部の学者たちが指摘するようにイエスは身の安全のためサマリヤに行かれたのかもしれないが、イエスが何かをされる時はおそらく人間的な理由はよりはむしろ神様の働きのためであろう。
  - b. ユダヤ人とサマリヤ人の間には社会的緊張があったため、パリサイ人はサマリヤを通るのを避けていた。サマリヤ人は民族的には半分ユダヤ人、半分異邦人だったので生粋のユダヤ人からは忌み嫌われていた。だがイエスがこの壁を打ち破ることになる。
  - c. ヨハネはイエスは疲れていたと記録している。イエスの人間性を表現するとともに、疲れている者は休んで良いという招きでもあるのだろう。
2. ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」—ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである。— (4:7-9)
  - a. イエスは初めからサマリヤの女に良い知らせを語るつもりだったであろうが、まずは社会的常識を打ち破る必要があった。
  - b. まず破らなければいけなかった常識は、ユダヤ人とサマリヤ人は互いにつきあいをしなかったということである。神様が私たちを用いる時、時として居心地の良い場所から踏み出さなくてはならない。私たちが一歩踏み出す時人間的な恐れから解放される。
  - c. 通常は午前中に行われる水汲みの仕事をこのサマリヤの女が正午頃に行っていたのは、何かによってさげられていたかあるいは一人になりたいため他の人がいなくなるのを待っていたのであろう。いずれにせよイエスがこの女と関わったのは偶然ではない。
3. イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれという者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」彼女は言った。「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。あなたは、私たちの先祖ヤコブよりも偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼自身も、彼の子たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」 (4:10-12)
  - a. イエスは女に生ける水を差し出す。女は流れ出る水だと勘違いするが、それは霊的な、いのちにあふれた水のことである。
  - b. この福音書で「水」という要素は繰り返し使われている。(1章のバプテスマ、2章のぶどう酒に変わった水、3章5節の水によって生まれる。)
  - c. 私たちの生活にとっても水は欠かせないものだが、イエスはイエスによってのみ与えられるいのちの水のことを話された。
4. イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」 (4:13-14)
  - a. 私たちをいつまでも本当の意味で満たすものはイエスが与える水だけである。他のものに満足を求めてもそれは壊れた水槽に過ぎず渇きを満たすことはできない。
  - b. イエスが与える生ける水は一度湧き出ると流れ続ける泉のようである。霊の水は永遠のいのちの源であり、イエスのみが与えることができる。それは神様からのフリーギフトで、私たちが自分の力で得るものではなくただ神様に求め受け取るだけで良い。
  - c. サマリヤの女はイエスにこの水を求め、イエスの答え(16-17節)は私たちの生活にどうやって神様の生ける水を受け入れるべきかの大きなヒントになっている。イエスは、この女が自分を満たすために使っていた罪を問いただす。私たちにも同じことが言える。私たちがこの生ける水の代わりに求めていた偽りと真剣に向き合わなければ、イエスが与えてくださる恵みを十分に味わうことはできない。あなたは自分の人生を何によって満たし、満足させようとしていましたか？